



トーカロ株式会社

2022 年 3 月期決算 会社説明会

2022 年 5 月 13 日

イベント概要

[企業名]	トーカロ株式会社		
[企業 ID]	3433		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2022 年 3 月期決算 会社説明会		
[決算期]	2021 年度 通期		
[日程]	2022 年 5 月 13 日		
[ページ数]	40		
[時間]	13:30 – 14:22 (合計：52 分、登壇：36 分、質疑応答：16 分)		
[開催場所]	103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 2-6-1 日経茅場町別館 地下 1 階 第 1 セミナールーム		
[会場面積]	238 m ²		
[出席人数]	50 名		
[登壇者]	4 名 代表取締役 社長執行役員 取締役 常務執行役員 管理本部長		
	三船 法行（以下、三船） 後藤 浩志（以下、後藤）		

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



経理部長
経営企画室長

細見 憲司（以下、細見）
清水 浩 （以下、清水）

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



登壇

司会：定刻となりましたので、ただいまからトーカロ株式会社様の決算説明会を開催いたします。
今回の説明会は、会場での開催に加えまして、ライブ配信形式のオンラインと併せたハイブリッド形式で開催させていただきます。まず最初に、会社からお迎えしております4名の方をご紹介します。
上げます。代表取締役社長執行役員、三船法行様です。

三船：三船でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

司会：取締役常務執行役員 管理本部長、後藤浩志様です。

後藤：後藤です。よろしくお願いいたします。

司会：経理部長、細見憲司様です。

細見：細見です。よろしくお願いいたします。

司会：経営企画室長、清水浩様です。

清水：清水です。よろしくお願いいたします。

司会：本日は、三船様からご説明いただくことになっております。ご説明後、会場から質疑応答の時間といたします。続きまして、今回オンラインでご参加されている方からもご質問をお受けする予定です。それでは、三船様よろしくお願いいたします。

三船：皆さん、こんにちは。今、ご紹介にあずかりました三船でございます。本日はよろしくお願いいたします。本日はご多用の中、私どもトーカロ株式会社の説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。また、オンラインでお聞きの皆さんも、ご参加ありがとうございます。日頃、私どもの業務運営に関しましていろいろご支援いただきまして、改めてここで御礼申し上げます。ありがとうございます。

先ほどの説明がありましたように、オンラインでやっておりますので、全員併せて50～60人の方がご参加されているということを聞いております。よろしくお願いいたしますと思います。それでは、早速ですが、決算説明会を始めたいと思います。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



1. 2022年3月期 連結決算の概要
2. 2023年3月期 連結業績予想
3. 中期経営計画の進捗状況

今日の話としましては、3つほどありまして、まずは22年3月期連結決算の概要と、今もう新しい期に入っておりますが、23年3月期連結業績の予想、それから昨年、中期経営計画を公表いたしておりますので、それに対する進捗状況という形で、この3つについてお話し申し上げたいと思います。また、日頃、会社の概要説明に関しましては最初に申し上げておりますが、今回につきましては資料のみの配布ということで割愛させていただきたいと思います。よろしくお願いします。

ハイライト

(1) 売上・利益ともに過去最高

半導体分野の好調継続

産業機械分野以外は、概ね好調に推移

(2) 子会社も国内・海外ともに増収増益

国内の自動車分野は堅調に推移

中国、台湾の半導体・FPD分野が好調

中国の石油・ガス分野は受注回復せず

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

4

それでは、22年3月期の決算概要についてご説明申し上げます。まずハイライトとして、簡単に実績概要をまとめますと、1つは売上、利益とも過去最高を記録しました。特に半導体の好調に支えられまして増収増益を達成したというところかと思えます。やはり化石燃料系のエネルギー関係の分野で落ち込みがありまして、そのなかでも産業機械分野がちょっと落ち込みましたが、他についてはおおむね順調に推移したというところでございます。

それから子会社につきましては、国内外とも増収増益を達成しております。特に子会社、日本コーティングセンターですが、自動車分野が復活したということもございまして、堅調に推移。また中国、台湾につきましては半導体・FPDの分野が伸長したということで好調に推移しております。ただ、中国の広州にあります工場につきましては、中国の石油・ガス関連がやはり低調な動きを示しておりまして、そこのところが回復しなかったなど。今後ちょっと難しい傾向にはあろうかと思っております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

2022年3月期 連結決算 実績概要



売上高と営業利益率



経常利益と経常利益率



(注) 2022/3期より「受取ロイヤリティー等」の計上区分を営業外収益から売上高に変更しており、過年度もこの変更を反映した組替え後の数値を記載しています。

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

5

以上が概要的な話でございまして、数値的に申し上げますと、グラフを2つ示しておりまして、左側が売上高と営業利益、右側が経常利益と経常利益率です。過去5年に遡りまして、22年3月期を一番右のほうに示しておりますが、売上高は438億1,300万円、営業利益率として23.4%というところです。それから経常利益につきましては105億7,100万円、24.1%の経常利益率。71期を迎えまして、初めて100億円を突破したという記念すべき年になっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

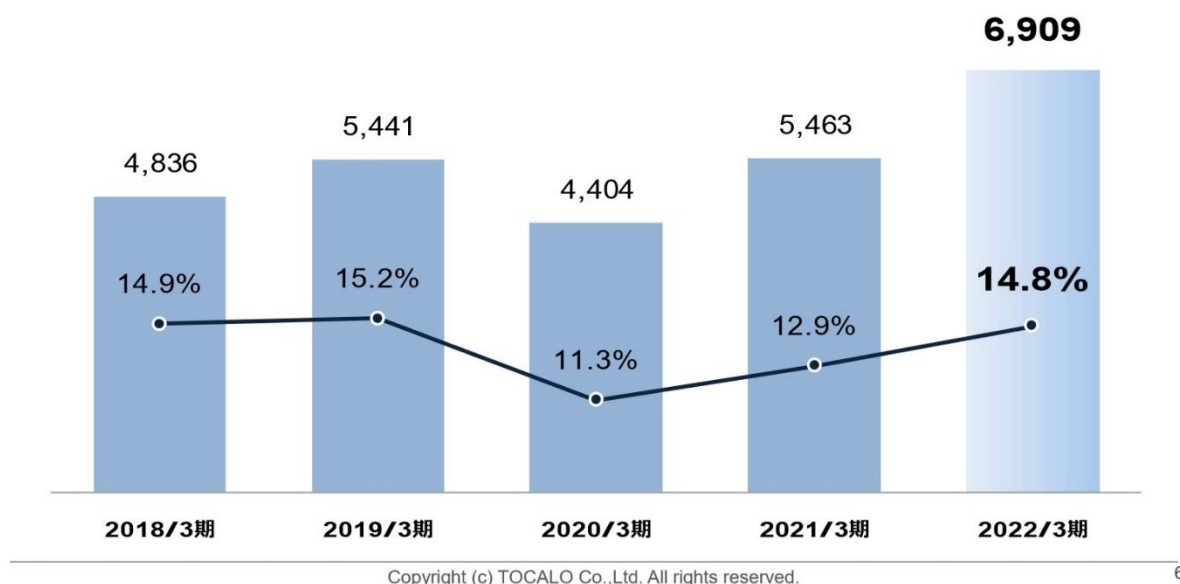


2022年3月期 連結決算 実績概要



親会社株主に帰属する当期純利益とROE

■ 親会社株主に帰属する当期純利益(百万円) ●--ROE



続きまして、当期純利益とROEを説明させていただきます。同じように5年間の推移を示しておりますが、22年3月期につきましては69億900万円の純利益で、過去最高益となりました。ROEにつきましては、残念ながら15%を目標にしておりますが、14.8%ということで、もうちょっとというところでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



2022年3月期 連結決算 実績概要



(百万円)	2021/3期		2022/3期		前年同期比増減	
	実績	構成比	実績	構成比	金額	率
売上高	39,294	100.0%	43,813	100.0%	4,518	11.5%
溶射加工(単体)	30,141	76.7%	33,043	75.4%	2,902	9.6%
半導体・FPD	18,176	46.3%	20,643	47.1%	2,467	13.6%
産業機械	3,965	10.1%	3,707	8.5%	△ 258	-6.5%
鉄鋼	3,166	8.1%	3,450	7.9%	284	9.0%
その他	4,832	12.2%	5,242	11.9%	409	8.5%
その他表面処理加工	2,112	5.4%	2,502	5.7%	389	18.5%
国内子会社	2,018	5.1%	2,399	5.5%	381	18.9%
海外子会社	4,800	12.2%	5,695	13.0%	895	18.6%
受取ロイヤリティー等	221	0.6%	171	0.4%	△ 50	-22.7%
営業利益	8,890	22.6%	10,255	23.4%	1,365	15.4%
経常利益	8,914	22.7%	10,571	24.1%	1,656	18.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,463	13.9%	6,909	15.8%	1,446	26.5%

(注) 2022/3期より「受取ロイヤリティー等」の計上区分を営業外収益から売上高に変更しており、2021/3期もこの変更を反映した組替え後の数値を記載しています。

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

7

実績の概要を表にいたしますと、売上高は先ほど説明しましたように438億1,300万円、45億円ほどの増収がありまして、11.5%の増加でございました。特に半導体・FPDの部分が45億円のうちの24億円を占めて、13.6%という伸びを示しており、これが引っ張ったというところで、全体の構成比としても半導体・FPDで47.1%。FPDでちょっと落ちたのですが、半導体が伸びて、その位置まで来たというところがございます。あと先ほど少し説明しましたように、産業機械の部分がちょっとマイナスに落としたのですが、その他についてはプラスに推移しておりまして、最終経常利益が18.6%増の105億7,100万円というところになりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



セグメント情報

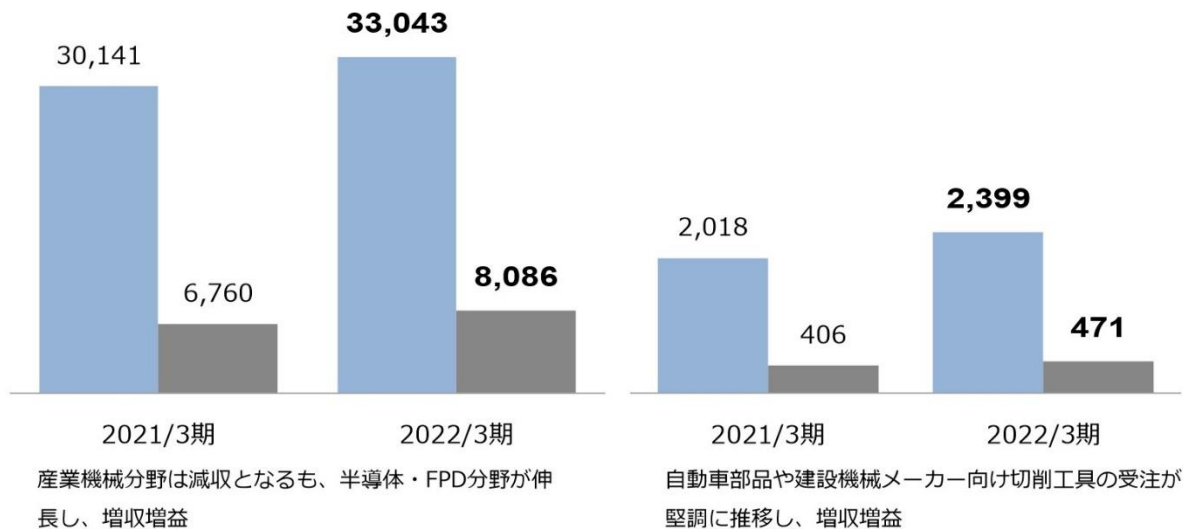


溶射加工(単体)

国内子会社

■ 売上高(百万円)

■ セグメント利益(百万円)



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

8

続きまして、セグメント別の情報ということで、我々4つのセグメントに分かれているのですが、まず溶射加工の単体ですと、産業機械分野は減収になりましたけれども、特に半導体分野が引っ張ってくれたので330億4,300万円の売上で、利益が80億8,600万円。このセグメントがほとんどを占めています。国内子会社が23億9,900万円と利益が4億7,100万円というところでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

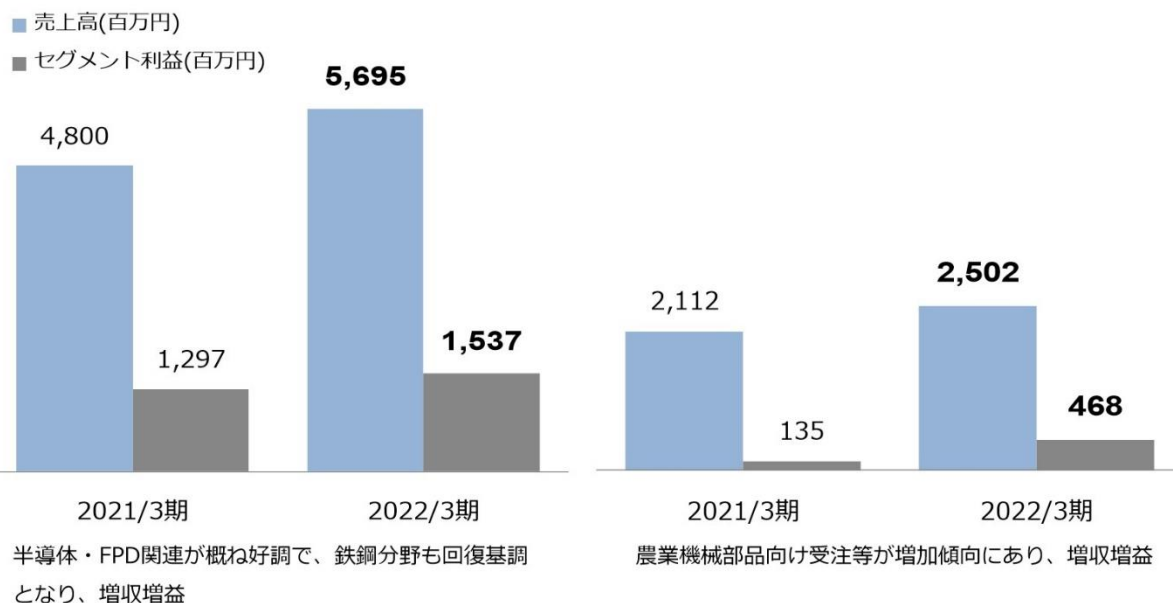


セグメント情報



海外子会社

その他表面処理加工



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

9

あと2つ。海外子会社につきましても、一部石油・ガス関係の落ち込みがありましたが、半導体・FPDに加えて鉄鋼関係も伸びてきましたので、56億9,500万円という売上を上げております。利益もそれなりに上がってきました。それからその他表面処理加工につきましても、同じように上がってきたという状況でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



セグメント情報



(百万円)	前年同期比増減							
	2021/3期		2022/3期		売上高		セグメント利益	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	金額	率	金額	率
溶射加工(単体)	30,141	6,760	33,043	8,086	2,902	9.6%	1,325	19.6%
国内子会社	2,018	406	2,399	471	381	18.9%	65	16.0%
海外子会社	4,800	1,297	5,695	1,537	895	18.6%	240	18.5%
その他表面処理加工	2,112	135	2,502	468	389	18.5%	332	244.8%
合計	39,073	8,600	43,642	10,564	4,569	11.7%	1,963	22.8%

(注) 売上高のうち「受取ロイヤリティー等」は含まれておりません。

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

10

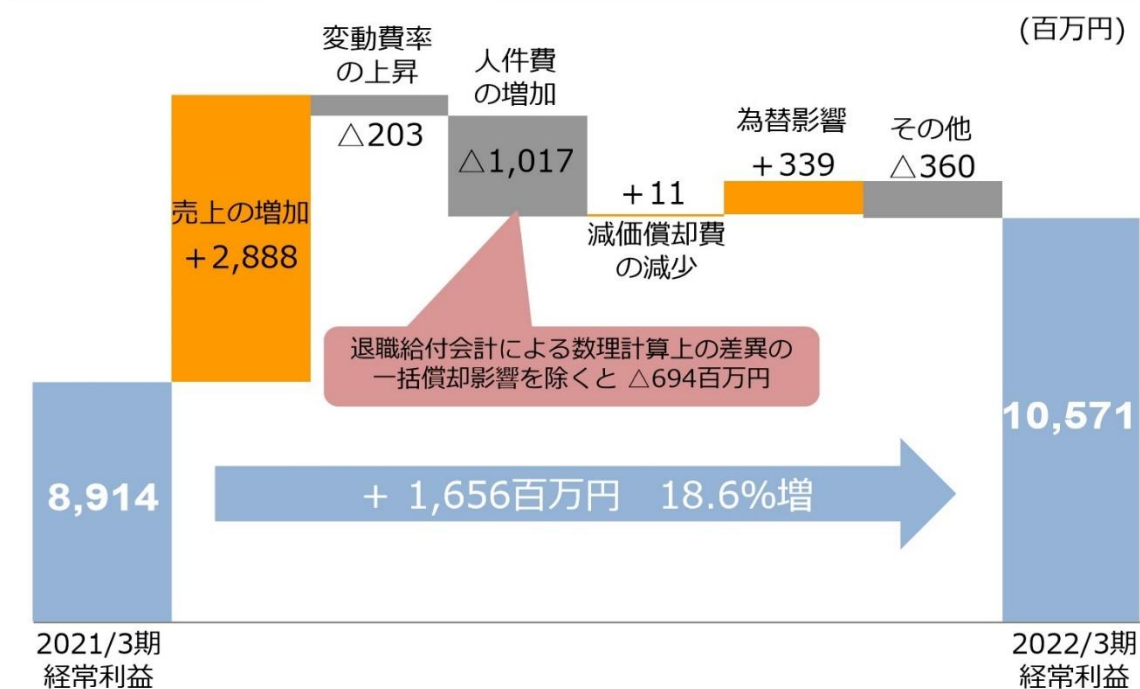
セグメント情報を表にして示しておりますので、もう一度見ていただきたいと思います。先ほども説明しましたように、この溶射加工の単体が80億8,600万円、ここが何と言っても引っ張ってくれたというところでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



前年同期比 経常利益 増減要因分析



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

11

経常利益の増減要因を分析しますと、前年が89億1,400万円、それから当期で105億7,100万ということで、16億5,600万の増、18.6%の増という形になりましたが、一番寄与したのはやはり売上が増加したことで、それが28億8,800万ほど効いています。あと当期については為替の関係が円安にかなり振れたものですから、直接海外との取引もちょっとやっておりますし、それから海外子会社の利益の円安効果がありまして、その分の差益が3億4,000万円ほど出たというところがございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



財政状態



(百万円)	2021/3期 4 Q 末	2022/3期 4 Q 末
総資産	64,183	69,517
自己資本	44,201	49,099
自己資本比率	68.9%	70.6%
有利子負債残高	6,031	4,249

- ・ 総資産は前期末比 53億34百万円の増加（有形固定資産の増加 21億45百万円）
- ・ 自己資本比率は前期比末 1.7ポイント上昇の70.6%
- ・ 有利子負債は前期末比 17億81百万円の減少（新規借入なし）

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

12

続きまして、財政状態をご説明しますと、総資産は695億円になりまして、自己資本が490億円まで来ています。自己資本比率としましては70.6%と、健全な状態を維持しているという感じはしています。それから有利子負債は、42億4,900万円まで減少して来ています。負債を17億8,100万ほど返済したというところでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



キャッシュ・フローの状況



(百万円)	2021/3期	2022/3期
営業キャッシュ・フロー	10,588	9,873
投資キャッシュ・フロー	△ 4,615	△ 5,044
財務キャッシュ・フロー	△ 3,798	△ 4,547
現金及び現金同等物の期末残高	18,672	19,141

- ・当期のフリーキャッシュ・フロー（営業C F + 投資C F）は+48億円
- ・投資C F / 有形固定資産の取得 前期：△43億円 当期：△45億円
- ・財務C F / 配当金の支払額 前期：△15億円 当期：△25億円

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

13

キャッシュフローにつきましては、当期、営業キャッシュフローは98億円になりました。前期よりちょっと少なくなっているのですが、これは法人税関係の支払いが増加したためです。あと投資キャッシュフローはマイナス50億円で、フリーキャッシュフローにつきましては48億円という形になりました。財務のキャッシュフローに関しましては、配当実施と返済を行いましたのでマイナス45億円という形になっています。最終的にキャッシュ残高は約191億円となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



主な設備投資について



2022年3月期 実績

設備投資額 43億85百万円

トーカロ 32億82百万円

倉敷工場新設・移転関連 13億円

東京工場新棟建設関連 12億円

その他、明石播磨工場／半導体関連設備の導入や
次世代コーティング開発設備の導入など

国内子会社

新規PVD装置設備関連を中心に

2億84百万円



<倉敷工場>

海外子会社

半導体・FPD分野(台湾)を中心に 8億18百万円

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

14

設備投資をかなり行ったのですが、予定よりちょっと少なくなりました。43億8,500万円というところで、いろいろ進めようとはしたのですが、部材が入らないとか、頼んでもまだ来ないとか、納期のディレイなどがございまして、最終的な設備投資額としては43億8,500万円になりました。

特に大きいのがトーカロ本体でやっています32億8,200万円のところですが、倉敷工場を新しく新設しまして、ここが一応竣工いたしました。今いろいろ移転をしているところですが、その分で13億円という形。ここに写真を載せていますけれども、近代的な工場にしています。ただ、ここは半導体の工場というよりも、どちらかと言うと鉄鋼、産業機械系の工場になっておりまして、半導体も一部BCPの観点から今後入れていこうかなという検討はしています。

あと東京工場の新棟関係で12億円。これは間違いなく半導体の関係で増産要請がかかっておりますので、それに対応するために作り込みましたが、これも去年竣工しております。また、建屋を作るとともに、中身の生産設備もいろいろ新しいコーティング装置も含めて、諸々の導入をしました。それから国内子会社につきましても、PVD装置の最新機を導入しました。

それから、台湾で半導体の関係が活況なものですから、今期から本格的になろうかと思いますが、台湾の子会社の第3番目の工場を作るために動き出しておりまして、ただ、台湾は今建設コストが

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



非常に高く、また納期もかかりまして、コロナの政策で海外から人を入れないということもあり、その辺の苦勞がかなり多い。延び延びになっているというのが実情でございますが、半導体の産業はすごい活況を呈しておりますので、しっかり対応をしていかなければならないということで検討しているところでございます。

2023年3月期 連結業績予想の概要



(注) 2022/3期より「受取ロイヤリティー等」の計上区分を営業外収益から売上高に変更しており、過年度もこの変更を反映した組替え後の数値を記載しています。

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

16

これで2022年3月度の業績発表を終わりました、2番目の2023年3月期連結業績予想をご説明申し上げます。先ほどのグラフに5年間のグラフを示しておりましたが、それに付け加える形で、2023年度3月期の予想を売上高、営業利益率、経常利益、経常利益率という形で示しております。

左側のグラフで、2023年度3月期の売上高は475億円、営業利益率が23.2%。それから利益に関しましては経常利益が110億円というところで、経常利益率は23.2%になろうかと思います。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



2023年3月期 連結業績予想の概要



■ 親会社株主に帰属する当期純利益(百万円) --ROE



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

17

あと純利益は71億8,400万円、ROEにつきましては前期より少し下がりました、14.0%と予想しています。なかなか今見通しにくいところもございまして、特にサプライチェーンの問題ですとか、物価がいろいろなところで上がってきており、非常に悩みどころです。オイルを中心に上がってきているのでしょうけれども、仕入れ商品の材料の関係が上がってきているとか、コロナの問題ですとか、特に中国のゼロコロナ政策でロックダウンの問題ですとか、その辺も含めながら試算したというところが実情でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



2023年3月期 連結業績予想



(百万円)	2022/3期		2023/3期		前期実績比増減	
	実績	構成比	予想	構成比	金額	率
売上高	43,813	100.0%	47,500	100.0%	3,686	8.4%
溶射加工(単体)	33,043	75.4%	36,496	76.8%	3,452	10.4%
半導体・FPD	20,643	47.1%	23,768	50.0%	3,124	15.1%
産業機械	3,707	8.5%	3,742	7.9%	34	0.9%
鉄鋼	3,450	7.9%	3,639	7.7%	188	5.5%
その他	5,242	11.9%	5,347	11.2%	104	2.0%
その他表面処理加工	2,502	5.7%	2,595	5.5%	92	3.7%
国内子会社	2,399	5.5%	2,528	5.3%	128	5.3%
海外子会社	5,695	13.0%	5,701	12.0%	5	0.1%
受取ロイヤリティー等	171	0.4%	180	0.4%	8	5.2%
営業利益	10,255	23.4%	11,000	23.2%	744	7.3%
経常利益	10,571	24.1%	11,000	23.2%	428	4.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,909	15.8%	7,184	15.1%	274	4.0%

(注) 2022/3期より「受取ロイヤリティー等」の計上区分を営業外収益から売上高に変更しております。

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

18

連結業績予想を一覧表にしますと、もう一度説明しますが、売上高は475億円、前年比で36億円増、8.4%増という形です。売上高の増加36億円のうち34億円は溶射加工の単体のところで伸ばそうと考えております。その中でも31億円は半導体・FPDです。FPDの伸びはそんなにありませんので、ほとんど半導体で伸ばすということになります。これが15%の伸びを示し、その他にも産業機械や、特に鉄鋼は今年の業績も非常に良く、また脱CO2の問題も含めてかなりの投資をされるということもあり、それらも増えていくと思います。

国内子会社と海外子会社については、中国のロックダウンの関係もありまして、その辺の読みがなかなか難しいところがあります。

経常利益が前年比4億2,800万円増、4.1%増の110億円と予想しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



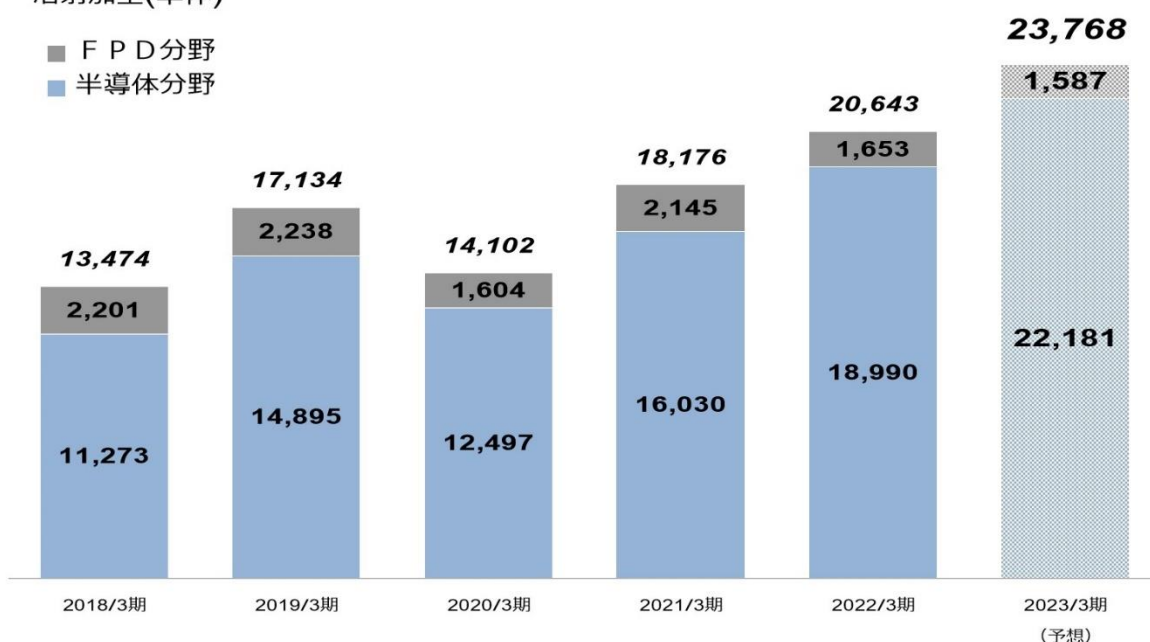
半導体・FPD分野の売上推移



溶射加工(単体)

(百万円)

■ F P D 分野
■ 半導体分野



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

19

この表は半導体・FPD分野の売上推移という形で、過去5年間と今年の予想ということを見ています。青い部分が半導体ですけれども、前期もFPDの部分は下がっており、今年もちょっと下がるというのが私どもの読みでございまして、次のFPDへの移行にちょっと時間がかかっている。今のFPDで満足されているところもあって、FPD製造装置の新設の部分がちょっと少なくなるのかなと思います。

半導体につきましては、サプライチェーンの問題はいろいろあるのですが、若干イケイケなところがありまして、昨日も私どものお客さんのところで決算発表をされましたが、やはり半導体の、特に前工程の部分というのは2割ぐらいのプラスを見ておられました。私どもも16%ぐらいの売上増を見ているというところです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



半導体・FPD分野以外の売上推移



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

20

もう1つ、半導体・FPD以外の部分の伸びがどうなのかというところですが、グラフの一番上の子はちょっと伸びるというところですが、中国の子会社は、分からないところがあるのですが、全体的に伸びていくだろうと考えています。

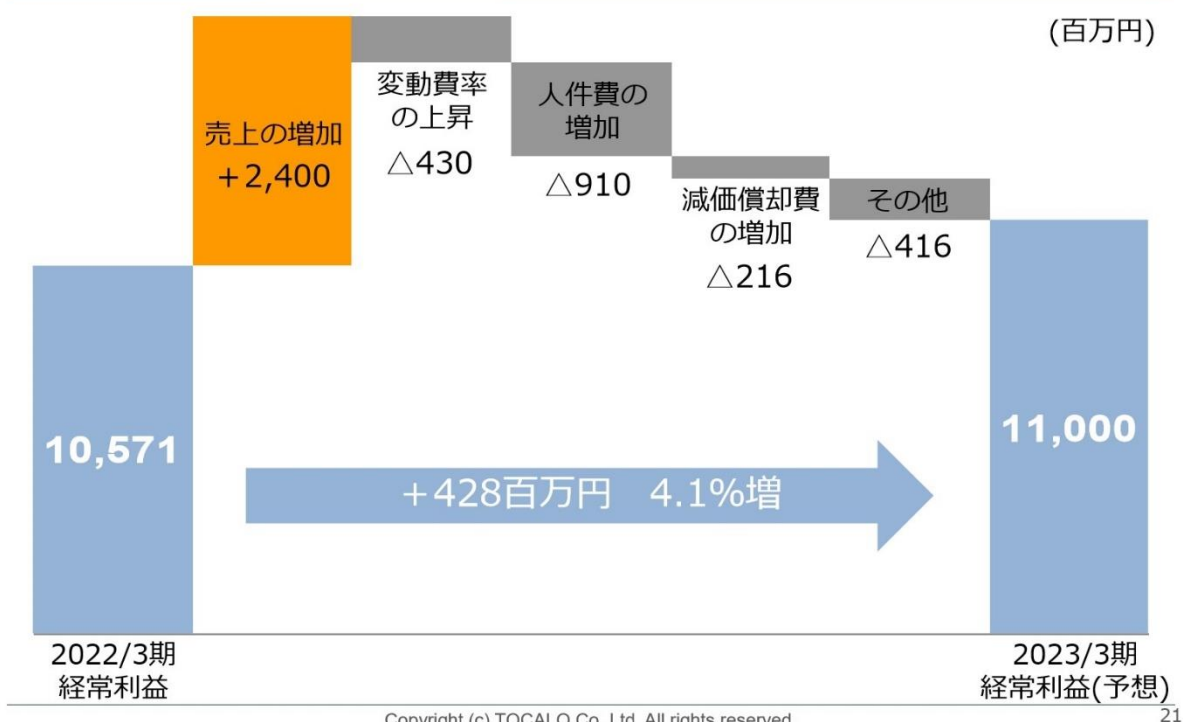
それから、特に産機とか鉄鋼の部分伸ばしたいのですが、若干伸びていく程度と見ており、予想は235億という形にしています。今までの最高が237億9,000万円ですので、そこまでは何とか持っていきたいとは思っていますが、情勢が情勢ですので何とも言えないところでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



連結業績予想 経常利益 増減要因分析



21

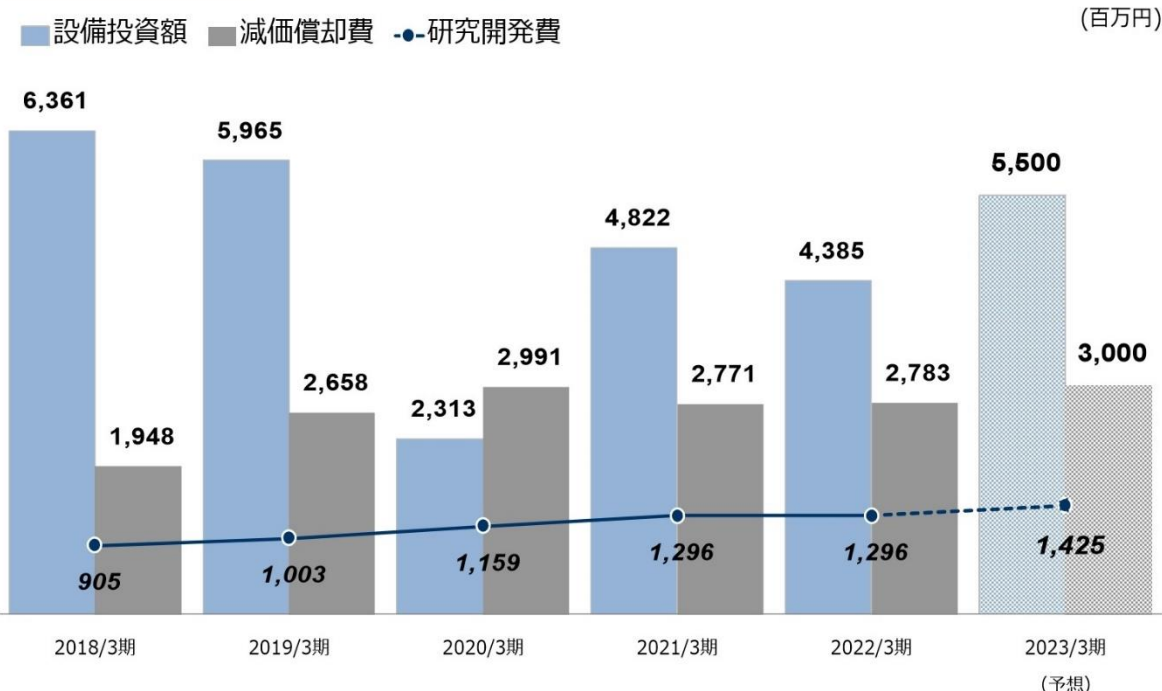
それから利益に関しましての増減要因分析ですが、105億7,000万円から110億円に、4億2,800万ほどプラスになるのですが、やはり売上高の増加に起因するところが一番大きいと見ております。この利益を上げることが私どもにとってはROEを上げることに一番につながりますので、どう生産効率を上げていくかという勝負になると思っています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



設備投資額・減価償却費・研究開発費



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

22

設備投資と減価償却、それから研究開発につきましてはあまり代わり映えしないのですが、前期の設備投資は納期ディレイもあって43億8,500万円でしたので、今期につきましては55億円を見ています。今の段階で納期がなかなか見えないところがあって、きっちりした数字が読めませんが、取りあえず55億円の設備投資で、減価償却は30億円というところです。研究開発につきましては一応売上高の3%の14億円を見込んでいます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



設備投資計画について



2023年3月期 設備投資予定額 55億円

トーカロ

東京・明石・北九州工場を中心に

生産能力増強など 35億円

国内子会社

生産能力増強など 2億円

海外子会社

漢泰国際電子(台湾)での新工場建設ほか 18億円

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

23

どのような設備投資をするのかですが、台湾につきましては工場の新設を行います。ただ1年間でできるわけではなく、今のところ前期で基礎までは終わっていますので、そこから工事を再開し、できるのは来年の秋頃になろうかと思います。ただ、先ほども言いましたように、ゼネコンさんの人手が集まらないという難しいところがございますが、来年の秋頃を目標に何とか進めていくというところでございます。

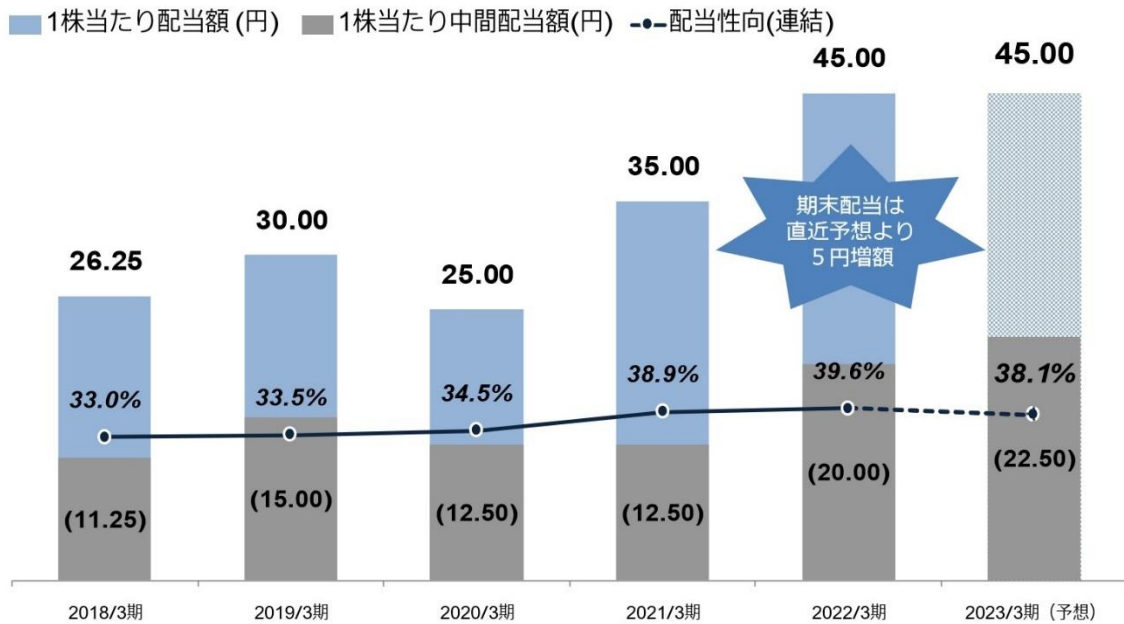
それからトーカロ本体につきましては、建屋が大体できましたので、中身の勝負に入っていきます。特に生産設備の関係で、FAを含んだロボット化とか、効率化のための生産設備とか、新しい皮膜へのトライというところも含めて設備投資を行おうと考えております。国内子会社につきましても同じように、次の生産設備をどうするかというところで考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



1株当たり配当額・配当性向の推移



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

24

この表は1株当たりの配当額と配当性向について説明したもので、今までの推移を示しております。22年3月期の1株当たり配当額につきましては、昨年の今頃発表したのが35円でしたが、中間で成績が上がったときに40円とし、また今回5円ほどプラスして45円にしています。45円としますと配当性向が39.6%となります。中間で配当した20円と、6月の株主総会が終わった後に配当する25円を合わせて、年間としては45円になります。

配当性向が39.6%というところまで来ました。23年3月期につきましても45円と考えています。110億円の経常利益ですので、45円としています。配当性向は38.1%となります。もともと私どもの考え方は、できるだけ株主の皆さんに利益還元することを最重要項目に置いており、5年ほど前は33%から35%ぐらいで推移していたのですが、少しずつ上げてきていまして、まだ40%までは行っていないんですが、30%の後半に持ってきて、だんだんそれを上げていきたいと考えています。この辺が経営者の意思として株主さんに伝わればよいと思っております。

サポート

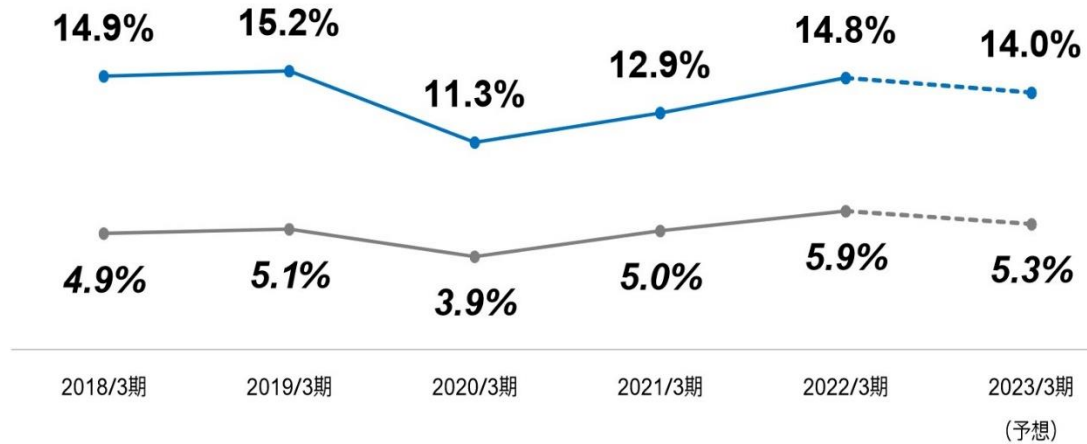
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



ROE・純資産配当率の推移



● ROE ● 純資産配当率



ROE（自己資本利益率）＝ 当期純利益／期中平均自己資本

純資産配当率＝ 1株当たり配当金／期中平均1株当たり純資産（＝ ROE × 配当性向）

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

25

ROEと純資産配当率の推移になります。22年3月期に、ROEは14.8%まで戻し、DOEも5.9%まで戻しましたが、今期の予定としてはROEが14.0%、DOEは5.3%というところを目標にしております。

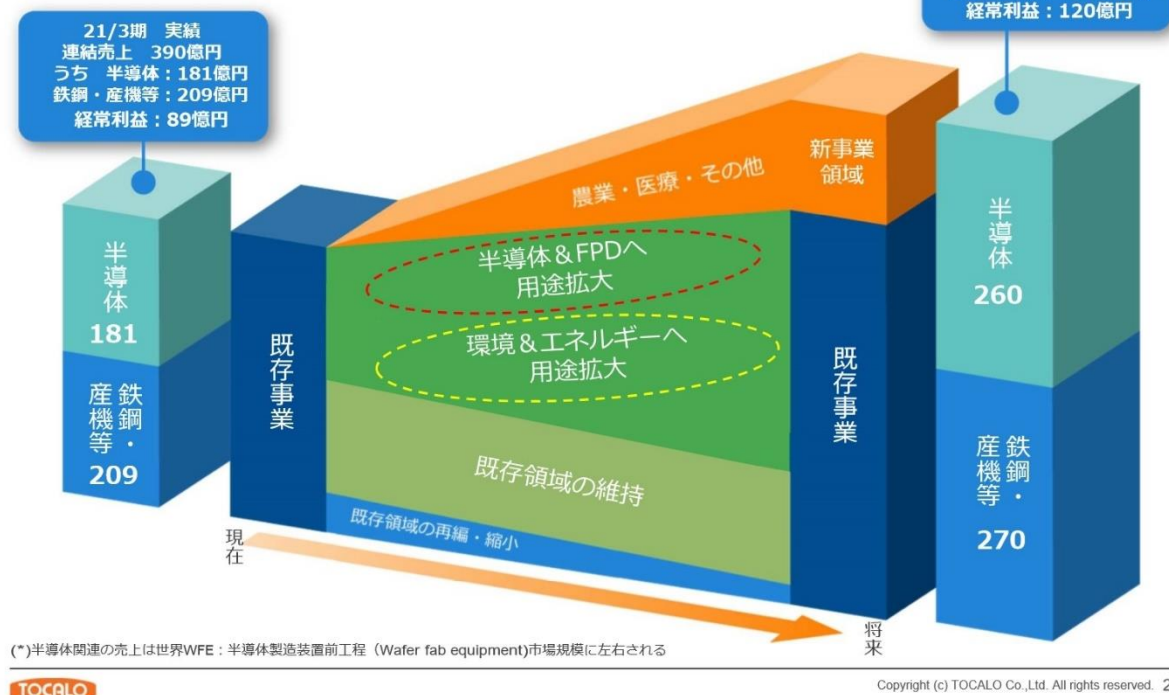
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



持続的成長イメージ（中期経営計画）

将来の事業構成について

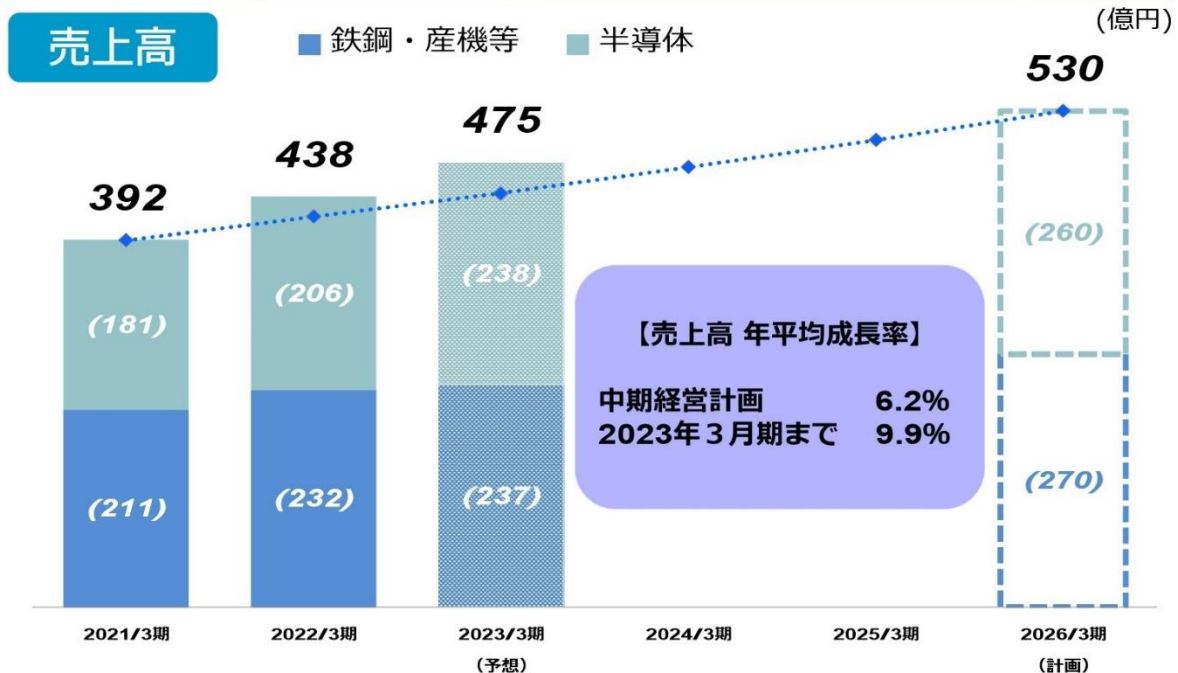


これで今期の業績予想を終わりました。中期経営計画の進捗状況についてご説明申し上げたいと思います。この図は中期経営計画でお出した図ですが、21年3月期を出発点とし、その時の売上が390億円、うち半導体が181億円、その他が209億円というところで、5年後の26年3月期に売上を530億に、経常利益を120億にしますという内容で中期経営計画を出した次第です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

中期経営計画（数値目標）の進捗状況



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

28

中期経営計画に対してどういう進捗かといいますと、売上高につきましては21年3月期で注記のとおり、ロイヤリティの2億円を売上のほうに入れていますので392億円。それを26年3月期に530億円とする中期経営計画では年平均の成長率が6.2%でした。一方、23年3月期までの予想を見てみますと、年率9.9%で成長してきているということです。

この530億円というのは25年3月期ぐらいで達成できるかもしれないという気はしているのですが、もう少し見極めないといけないと思います。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



中期経営計画（数値目標）の進捗状況

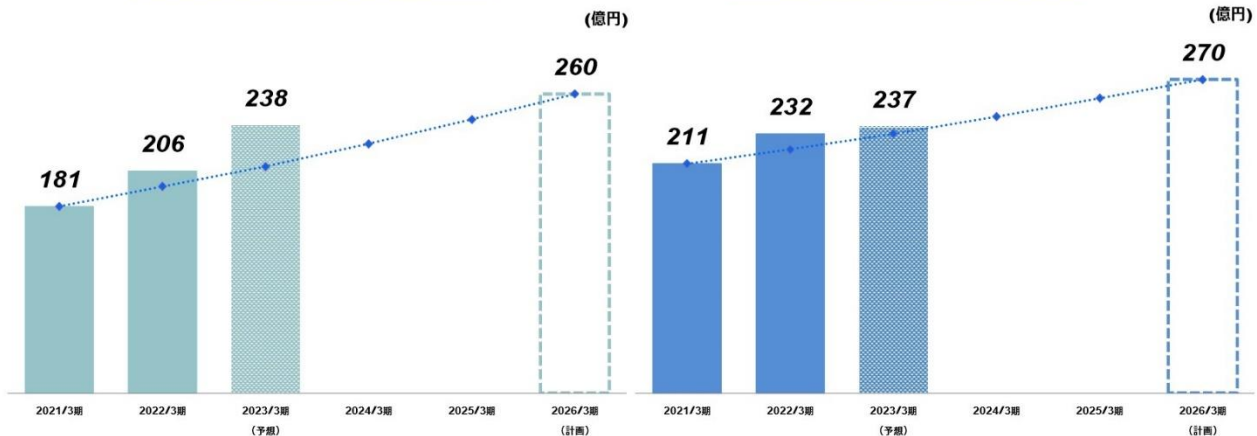


「半導体」の売上高

【売上高 年平均成長率】
 中期経営計画 7.4%
 2023年3月期まで 14.4%

「鉄鋼・産機等」の売上高

【売上高 年平均成長率】
 中期経営計画 5.0%
 2023年3月期まで 6.0%



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

29

半導体とそれ以外という形に分けますと、半導体のほうは中期経営計画では7.4%の年平均成長率と見ていたのですが、これが世の中の要請、状況はかなり上がってきており、14.4%と約2倍のスピードで成長しています。それから、半導体以外の鉄鋼・産機等のほうは、子会社も入っていますが、これも中計の年平均成長率5.0%を上回る形で進んでいます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

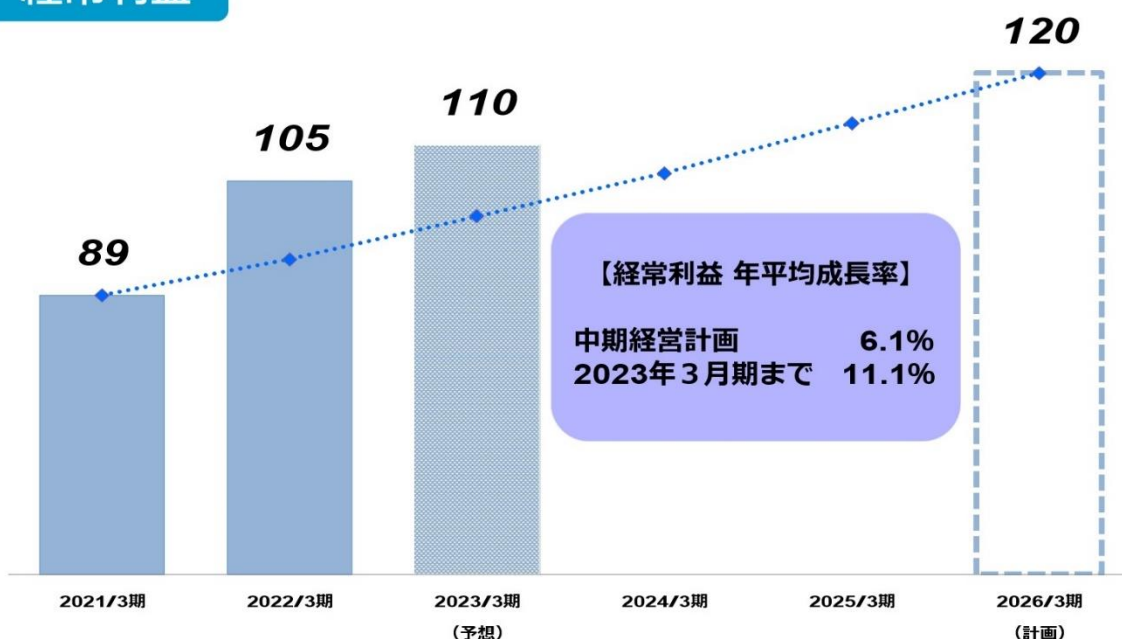


中期経営計画（数値目標）の進捗状況



経常利益

(億円)



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

30

経常利益については中計の成長率6.1%に対して11.1%という状況で、23年3月期の予測では110億に達成します。24年3月期にはもうこれを達成しそうなところまで来ていますので、来年の今頃にはぜひ上方修正するような形に持っていきたいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



<強い財務体質の維持>

自己資本比率 70.6%

- 自己資本比率（70%程度）の維持（実質無借金継続）

<収益力の維持>

- ROE（自己資本利益率）の維持（15%を目標）
- 経常利益率の維持（20%を目標）
- EPS（一株あたり当期純利益）の維持・向上

ROE 14.8%

経常利益率
24.1%

EPS 113.62円
(前期 89.86円)

<配当性向>

- 純利益の1/3以上を目途に安定配当
- DOE（自己資本配当率）の維持（5%を目標）

配当性向 39.6%

DOE 5.9%

あといろいろな施策の進み具合ですが、自己資本比率につきましては、70%を目標にしているのですが、22年3月期ですと70.6%というところで、ROEについては14.8%で、目標までもう少しでした。経常利益率は24%を確保しています。配当性向につきましては3分の1ということにしていたのですが、先ほども申しましたように、できるだけ利益還元をしたいということもありまして39.6%まで来ています。DOEも5.9%まで来ています。

<設備投資>

設備投資額 43億85百万円

技術優位性の維持・向上に向けた投資の継続

合計250-350億円（50-70億円／年）

半導体増産関連、新技術プロセス関連、生産効率化関連等

<研究開発費+技術開発費>

売上高 研究開発費 比率 3.0%

研究開発費 : 連結売上高比3%程度を維持

技術開発費 : 各工場の生産技術部門で投資継続

売上高 技術開発費 比率 2.0%

設備投資額につきましては、もともと5年間で250から350億円、年間で50から70億円ぐらいを見ていたのですが、前期につきましては43億8,500万円。50億円の予算を計上していたのですが、先ほども言いましたように延期等がありまして、43億円台になりました。今期につきましては55億円プラスアルファで設備投資をしていく考えです。特に生産設備に関して行っていこうという形で取り組んでおります。

それから研究開発とか技術開発費ですが、研究開発費はもともと技術開発研究所で行っている部分で、本来の研究開発として売上の大体3%を見込んでいるのですが、それ以外にも私どもは工場で技術開発、アプリケーション開発をかなり活発にやっております。

どちらかと言うと、そちらのほうがお客さんに近くて、即商品化、リリースされるというところがあるものですから、そういう意味ではその辺の皮膜設計とか皮膜評価というところにかなり費用を使っています。

むしろ、そこが研究開発費に近いところもあるのですが、それは工場の製造原価のような形にはしてはいますが、それを例えば技術開発費という形で集計してみますと、それが売上の大体2%ほど、約8億円強ありましたので、それを併せると、私どもが研究開発的な要素で投資しているの

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

は、売上の5%ぐらいになります。

環境対応 2022年3月期の状況

TOCALO

<環境への負荷低減の取組>

研究スタート

● 温室効果ガス排出ゼロに向けて

- ・化石燃料を使用しない溶射手法の検討
- ・加工プロセス改善による電力使用量削減
- ・再生可能エネルギーの活用

・電気使用量
42,492MWh（前期39,824 MWh）

・売上1百万円あたり電気使用量
1.16MWh（前期1.21MWh）

東京・明石・神戸・北九州工場において、全部
または一部を再生可能エネルギーに切り替え

※目標：2030年度の温室効果ガスの削減目標を、
2013年度比46パーセント減（政府目標）とする。
（2021-2022年までの2年間は準備期間）

● 水質汚染・大気汚染防止に向けて

当社事業活動のすべてのプロセスにおいて、
状況把握とその改善に取り組む。

状況把握に取り組み中

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

33

それから今、世の中で盛んに言われてホットな情報としてあるのが環境対応だと思うのですが、特に温室効果ガスの排出ゼロに向けて、カーボンニュートラルも含めてその動きをしていかないといけません。私ども化石燃料を使ったり燃やしたりしていますので、それに対する溶射手法を変えていこうという、量的には微々たるものですが、イメージの問題もあるので、そういうところも研究開発をスタートしています。

しかし実質的なところ、やはり電気の使用量というのはかなり多くて、私ども4,200万kWぐらいの年間使用量がありまして、売上100万円当たりの使用量としては下がっているのですが、ボリュームとしては売上の増加に伴って上がっているような状況で、何とかしなければなりません。

温室効果ガスの排出を2013年の54%以下に抑えるというのが、2030年の削減目標になっていますので、今からそれに合わせるような形にできるだけしていかないといけません。再生可能エネルギーの使用をその分当てしていかないといけないので、取りあえずその一部購入を今期から始めておりまして、これを2030年も続けることになります。あと購入するばかりでなく、自分のところでどうしていくかということも進めながら、足りない部分は購入していくという形になろうかと思

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

 **SCRIPTS**
Asia's Meetings, Globally

います。今年それを1年取り組みまして、来年またどう改善していくかというのを毎年毎年、より大きな課題になってくると思いますが、対応していく考えです。

それから水質とか大気汚染につきましては、ISO14000 に則った形で、法的にはもちろんクリアしていますが、これを今からどう下げて、改善方向に持っていくかということは、一つ一つしらみつぶしに当たりながら、コツコツやっていくしかないと考えております。これで全体的な 22 年 3 月期の報告と 23 年 3 月期の見込み、それから中計に対する進捗状況のご説明を申し上げました。以上でございます。ありがとうございます。

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



質疑応答

司会[M]：ご説明ありがとうございました。それでは、ご案内のとおり、最初は会場にお集まりの皆様からの質疑応答に入りたいと思います。ご質問いかがでしょうか。お願いいたします。

金井[M]：三菱UFJモルガン・スタンレー証券の金井でございます。まずは、経常利益100億円乗せ、おめでとうございます。

三船[M]：ありがとうございます。

金井[Q]：次は、時価総額1,000億円ですねという感じでございますけれども。先ほどもちらっとおっしゃっていましたが、中計の経常利益着地が120億円でございますよね。今期予想が110億円なので、達成してしまいそうな感じが素人目にもするのですが。

一方で、先ほどおっしゃってました環境対応でございますとかにいろいろ費用を使われたりとか、それからサプライチェーンでございますとかシリコンサイクルとか、そういうものもいろいろリスクとしては存在すると思います。取りあえず今期は110億円はまず行くだらうということで、その後の24、25、26年につきまして、特に環境面ですとかシリコンサイクルとか半導体の比率が上がっているということもございますので、踊り場もあって120億円になるのか、あるいは早々に上方修正する蓋然性が高いのかといったような展望についてお聞かせいただければと思います。

三船[A]：ありがとうございます。なかなか展望が見えないのが実情でございます、2026年の3月期の120億円というのは、どちらかと言うと踊り場というイメージよりも真っ直ぐの線で大体上がっていくという形で計画しておりましたが、ただ、やはり途中で波があるのも間違いのないと思います。特に私どもは半導体の関係も扱っているというところや、まだコロナ禍というところもあって、そういう意味では踊り場は当然来るだろうとももちろん見ていました。

ただ、去年の今頃、もともとの前期の予想は90億円だったのですが、中間で102億円にして、最終的には105億まで来ましたので、そういう意味では経済がこういう状況の中でも、戦争が起こっても、日本の産業の動きというのはかなり強いものがあると感じています。今110億円を目標にはしていますが、来年が踊り場になるのか、これがもうちょっと続くのか、それとも、もう間違いのないところまで続いて行くのか。

ただ、来年の中頃まではある程度半導体もそれなりというように見られていて、どこで半導体が落ちるのか、半導体の製造装置の開発が止まるのかは、なかなか見えないところです。来年の今頃に

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

ならないとやはりよくわからないと言うしかありません。申し訳ないですが、今のところこれが精一杯の見込みです。答えになっていないかもしれないですが。

司会[M]：他にご質問いかがでしょうか。お願いいたします。

質問者[M]：よろしくお願いします。

三船[M]：お世話になります。

質問者[Q]：2点あるので続けて質問させていただきますが、1点目が設備投資の中身で、東京と明石と北九州、半導体関連が多いと思いますけれど、特に船橋のほうは前の投資の後に一旦落ち込みがあったので、私の認識では確か能力がそんなに問題なかったかなと思っていたのですが、現状はもう結構いっぱい、いっぱいになっているのか、あるいは設備投資の中身は、どちらかと言うと生産能力よりも効率化とかその他みたいなものなのか、そこら辺がどうかというのが1つです。

あと二つ目が、微細化のところです。過去にいわゆる溶射以外の技術が出てくるとか、あるいは溶射方法が限界を迎えるというような話題があったと思うのですが、現状そこはだいぶ溶射方法とか、あるいは材料のところで改善されているのかとか、さっき開発投資みたいな話もありましたけれど、そこら辺の先端の溶射の技術とか課題がどのようになっているか教えてください。

三船[A]：わかりました。ありがとうございます。まず一番目の東京のほうの設備投資の関係でございしますが、確かに昨年工場を作りまして、それなりのキャパを確保できるようにしていますが、あれもお客さんからのフォーキャストに則って、今年どれだけ、来年どれだけというように増加する形がございまして、それに合わせて私ども設備投資をしていくということで、一部はやはりキャパの問題を解消するためにコーティング設備を入れていくというのが1つ。

もう1つは、二つ目の質問とも絡むのですが、次のためにどうするのかというところがありまして、要は5ナノから3ナノに今移行していつているのですが、その後の問題もありまして、そういう意味では溶射だけでは対応できないところもございまして。一部では違うコーティング方法というのを開発試作しておりまして、量産化までとは言いませんが、それに対する投資をするというのが1つの大きな今回のポイントでございまして、この2つが絡んでいます。2番目のご質問の答えもこれでよろしいでしょうか。溶射では無理とは言いませんが、溶射のほうでは材料開発をさらに行っていくことが、ファイン化や微細化への対応に必要なだと思います。

司会[Q]：他にご質問いかがでしょうか。ないようでしたら、オンラインでご参加の方からの質疑応答に移りたいと思います。それでは司会のほうからご質問を代読させていただきます。月並みの質問で恐縮ですが、主に半導体関連に関して、現在のウクライナ情勢に関して目先の事業展開に何

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



か影響があるのかご教示ください。また、中国のゼロコロナ政策（ロックダウン等）による影響はいかがでしょうか。2023年3月期業績への影響、中期計画に関する影響に分けてコメントをいただけると幸いです。

三船[A]：ウクライナの問題に関しましては、直接の影響はございません。ただ、いろいろ材料系統とかガスも含めて、その辺の入手が困難になるかと思ったのですが、私どもに直接の影響はないような形で推移しております。ただ、全体的なデリバリーの関係が滞ってきますので、そういう意味では私どもも加工する素材を頂かないとコーティングできないものですから、その部分の回りが悪くなってきているというのは間違いありません。特にアメリカのメーカーさんとも付き合っておりますので、輸送の問題において若干ですが間接的に波及しているところぐらいです。

それからもう1つの中国のゼロコロナ政策では、今、上海が完全に封鎖されてロックダウンされている状態で、私どもは上海の隣の昆山(クンサン)というところに工場を設けておりまして、そこもロックダウンとなっていましたので、4月に関しましては、全く稼働ができませんでした。

やっとゴールデンウィーク明けくらいから稼働をしていったところで、ガスの供給の問題とか、その辺の問題をかなり苦労して現地では対応してくれていまして、例えば1月の稼働を100とすると、今のところ70か80くらいまで回復はしてきていますが、一人でも従業員からコロナ患者を出すとまた全部止めなければなりません。

それから住んでいる街全体で1人でも出ると、その街は全部ロックダウンされるという、日々そのように監視されながら加工をしているところでございまして、その辺の影響で今後どうなるか非常に怖いところです。広州のほうは今のところほぼ問題なく推移していますが、どうなるか予断は許しません。

ついでに申しますと、今、台湾のほうでもコロナ患者が増えてきていまして、台湾はロックダウンするようなことはありませんが、それでもかなり休暇を取る社員が出てきており、人員を回すのに四苦八苦しているのが伝わってきています。業績への影響について、見込み数字に関しましては、中国のロックダウンが4月にありましたので、もともとの計画は3月に立てましたが、4月、5月、6月ぐらいまでは若干その影響を考慮する形で今回の計画は立てております。ですから、それが急に回復するということがあると、プラスに作用するかもしれませんが、あとは祈るだけです。以上でございます。

司会[Q]：ありがとうございます。また1つご質問が入っておりますので、代読させていただきます。中期計画に関連して、鉄鋼、産業機械などの売上也計画以上の好調ということですが、こういった領域が好調なのでしょうか。可能でしたら、中計で挙げられています環境&エネルギーへの用

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



途拡大の進展についてもご教示いただけると助かります。

三船[A]：特に鉄鋼関係が前期22年3月期で伸びたのですが、私どもの強みはどちらかと言うと、下工程の垂鉛メッキ鋼板とか高張力鋼板などの製造設備のほうに対してであり、上工程の高炉から熱延のところぐらいまでの部分はあまり得意としていませんでした。しかし、そちらの部分のほうに省エネの課題がかなりありまして、その部分についていろいろお客さんのエンジニアの方と打ち合わせする中で、コーティングをすることによって省エネ効果が出るということが分かりました。

圧延設備やローラーにしても、すごい熱を使うものですから、設備をキープすることによって省エネ効果は大きいところがございます、そういう形で特に鉄鋼関係は上工程を中心に伸びてきたというのが実情です。

あと、特に石炭火力関係の部分が去年は落ちたのですが、今年につきましては今のオイルの問題とか、もちろん環境問題もありますが、石炭火力というのはやはり日本では焚かないと仕方がなく、また環境を保護しながら焚かないといけないということで、CO2をキャッチして貯めることも含めて、クローズの環境でやっていこうという動きが今非常にあります。重工メーカーさん、プラントメーカーさん含めて、そういうところの話がかなり来ており、伸びてくるだろうと見ています。

それから、環境・エネルギーに関しては、中計の関係から言いますと、電池のほうにニーズがあるだろうと思っていましたが、いろいろ試作しながらリチウム電池とか製造装置に対する部材への開発も行っておりますし、一部ではNAS電池もある程度復活し、ビジネスチャンスが増えてきているということも聞いておりますので、そういうところが上がってくると考えています。今ので答えになっていたでしょうか。

司会[M]：ありがとうございました。ご質問はオンラインのほうは以上のようにございます。それではご質問も出尽くしたようですので、これをもちまして決算説明会を終了させていただければと思います。三船様、ご説明ありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

